

中学校の部 優秀賞

愛南町災害体験談 第3話 布団にくるまれて

現実とつなげて考える

御荘中学校 3年 井上^{いのうえ} 沙南^{さな}

私が「愛南町の災害体験談」を読んで感じたことは、実際に体験した方の話を聞くことが、私たちの防災対策に直結するということです。私は、「南海トラフ巨大地震」という漠然とした単語を聞いても、実際にどんなことが起こるのか現実として考えることができませんでした。しかし、この「布団に」の中で、当時の人々が感じた恐怖や焦りを知ることで、巨大地震が起こった時も、自分たちの身にどんな恐怖や問題が起こりうるのかを考えることができました。

私が特に印象に残ったのは、浅井さんが「父親に布団にくるまれて外に放りだされよった」という場面です。初めて読んだとき、逆に危ないのではないかと思いました。でも、もう一度読み返してみると、布団で頭を守ることは、家の崩壊などから命を守ることができることに気付きました。急に訪れた危機にも関わらず、布団で我が子を包み、守るというとっさの行動に父親としての強さを感じました。

私は、今後、南海トラフ巨大地震に遭遇したとしても、自分と周りの人たちの命を守るために冷静に判断し、行動したいです。そのためにも、学校で行われる避難訓練を大切にし、被害のことを想定して、回避するための準備をしておきたいです。

私たちは、毎年、防災小説を書いています。そのおかげで、様々な場面での危険やその後の行動を考えられるようになりました。被害を想定することは、ただ怖がることではなく、冷静に行動できる準備となるのです。私はこれからも、心と物の準備を念入りにしておこうと改めて思いました。